

エリアブランディング構想（早川エリア）第1回研究会

1. 開催日時

令和6年（2024年）10月15日（火）10時00分から11時30分

2. 開催場所

小田原市役所 7階大会議室

3. 出席者等

高橋 征人（小田原市漁業協同組合/組合長）
米山 典行（株式会社小田原魚市場/社長）
高橋 収（漁港の駅 TOTOCO 小田原/取締役常務執行役員）
小松 伸之（早川商工振興会/会長）
田川 修三（小田原地魚大作戦協議会/会長）
市川 将史（小田原地魚大作戦協議会/副会長）
脇 昌丈（木地挽自治会/会長）
青木 勝（西組自治会/会長）
松本 孝俊（中組自治会/会長）
加藤 始（東組自治会/会長）
飯田 順彦（小田原商工会議所/支援一課長）
高村 完二（小田原市観光協会/DMO 担当主幹）
水口 聡美（NPO 法人小田原ガイド協会/理事）
山口 哲生（NPO 法人小田原ガイド協会/理事）
川口 篤郎（かながわ西湘農業協同組合/課長）
国分 宏樹（東日本旅客鉄道株式会社/マネージャー）
柳田 浩太郎（東日本旅客鉄道株式会社/主務）
福岡 裕輔（県西地域県政総合センター/課長）
荻野 欣之（県西土木事務所小田原土木センター/副技幹）
安藤 圭太（小田原市副市長）
和田 芳廣（経済部（観光課）/副部長）
内田 充俊（経済部水産海浜課/課長）
金子 明弘（都市部（地域交通課）/副部長）
織田 澤博（都市計画課 市街地整備担当/課長）
阿部 祐之（企画部 政策調整担当/部長）

【事務局】

府川 一彦（企画部政策調整課/課長）
田邊 周一（企画部政策調整課/副課長）
長崎 真治（企画部政策調整課/未来創造係/係長）
石渡 陽介（企画部政策調整課/未来創造係/主査）
田村 将洋（企画部政策調整課/未来創造係/主任）

【庁内検討会議メンバー】

小田 春菜（経済部観光課/主事）
見坊 俊明（経済部水産海浜課/主任）

菊川雅史（都市部都市計画課/副課長）
桐村隆広（都市部都市計画課/主任）
増田祐士（都市部地域交通課/主査）

4. 資料

次第

出席者名簿

席次表

資料1 エリアブランディング構想（早川エリア）研究会 資料）

資料2 「健やかな食のまち小田原」推進プログラム

資料3 エリアブランディング構想（御幸の浜・かまぼこ通り周辺）策定事業について

5. 次第

- 1 あいさつ
- 2 エリアブランディング構想（早川エリア）について
- 3 各団体からの取組状況等の共有について
- 4 その他

6. 議題

■次第2 エリアブランディング構想（早川エリア）について

エリアブランディング構想（早川エリア）に基づき、本事業目的、構想策定までの取組経過、構想の実現に向けた推進体制のイメージを説明。

（質疑）

なし

■次第3 各団体からの取組状況等の共有について

配布資料「エリアブランディング構想（早川地区）研究会 資料（水産海浜課）」と「健やかな食のまち小田原 推進プログラム（観光課）」、「エリアブランディング構想（御幸の浜・かまぼこ通り周辺）策定事業について（政策調整課）」に基づき、それぞれ関係課より説明。

(質疑)

小田原市漁業協
同組合（高橋）

- ・ まず、取組状況を一括で説明していただいたが、研究会メンバーはそれぞれの分野で活動している団体なので、関係ない分野を含め一括して説明されて、それに関して質問がありますかと問われても無理がある。次回以降は、改善していただきたい。
- ・ 水産市場の再整備について、水産海浜課長からの説明中で、令和7年度末までに基本構想の策定を目指すとのあるが、これまで4年以上にわたり、水産市場の再整備について検討している。
- ・ 令和7年度末ということは再来年になるということ。基本構想を策定して、その後、水産市場を解体していくことになる、再整備に何年かかるのか。なぜもっと早くできないのか。再整備に7年も8年も時間をかけると、食べ物の値上げだけでなく建築資材もどんどん値上ってしまう。
- ・ 次に、エリア内の移動に係る取組について、港内クルーズに関しては説明資料に記載されているように、定期航路化に向けては国土交通省などの関係省庁から相当厳しい規制がかかるため、かなり難しいと感じる。
- ・ 次にエリア内外の移動を促す交通手段について、電動キックボードは危険なので導入しないでいただきたい。
- ・ 漁業者からは、SUP やサーフィンをする人と漁業者との事故について苦情が寄せられているが、SUP やサーフィンを禁止する法律はないため、例えば出入りできる場所を一か所に定めて、遊ぶことができるエリアを明確化するなど考えていく必要性を感じている。
- ・ 電動キックボードについては、皆さん知っているとおり、土日祭日は、漁港周辺は大変混雑しており、早川に來訪した一般車両が玄関先に2～3時間も駐車していることもあり、早川住民から警察に対して何度も苦情が寄せられている。
- ・ こういった点を考慮すると、このエリアブランディング構想においてまずやるべきことは、住民の皆さんのことを考え、小田原漁港区域内のインフラ整備である。どうしたら自動車をスムーズに移動させることができるのか。それと駐車場の確保。現在、駐車場として一般利用されている野積み場ではスペースが狭い。
- ・ 駐車できない自動車が駐車エリアから溢れでて南町の方まで繋がってしまうこともある。

水産海浜課（内田）

- ・ こうした現状からも、自動車がスムーズに移動できる方策をまず先に考えるべきである。
- ・ 水産市場の再整備については、組合長ご指摘のとおり、4年以上ではなく、10年以上も前から検討を進めているということは承知している。
- ・ しかしながら、これまでは完全閉鎖型のコールドチェーンが備わった豊洲市場のような施設を参考に検討していたが、昨年度、漁業関係者とともに先進事例を視察した結果、もっと簡易な施設でもよいのではないかという議論があったことから、改めて、関係者の方と共通認識を持ちながら、基本構想の策定に向けて加速していきたいと考えている。
- ・ 港内クルーズについては、定期航路化が難しいということは承知しており、今回はみなとまつりだけでの運行であったが、今後に向けては、繁忙期において、本港に駐車してから、漁港の駅 TOTOCO 小田原に移動するために、また自動車に乗って移動するには時間を要してしまうので、例えば人が多く来るゴールデンウィークやお盆など繁忙期を対象に港内クルーズ船を運航することで、港内クルーズの需要と効果など実現可能性を検証する取組を来年度以降実施していきたい。
- ・ 次に電動キックボードについて、本取組は渋滞対策の一環でもあり、現状では小田原漁港周辺と漁港の駅 TOTOCO 小田原方面に来るためにはレンタサイクルしかないが、小田原駅周辺にも電動キックボードのスポットが設置されているため、小田原駅周辺に駐車して、電動キックボードで移動することも可能になることから、早川エリアだけでなく、小田原駅周辺との繋がりも考慮しながら考えていきたい。
- ・ 駐車場の抜本的な対策としては、水産市場の再整備に際して、施設に十分な駐車スペースを確保してまいりたい。
- ・ SUP 等については、先ほど説明させていただいたとおり、10月4日に開催した懇談会において、漁港周辺の港口及び船が出航する時間帯については、SUP の進入を禁止という話でまとまったので、進入禁止箇所を明確にしたチラシ等を作成し周知に努めてまいりたい。
- ・ 私どもとしては、水産市場を再整備していただけることはありがたいが、整備費がかさんでしまうと、株式会社小田原魚市場に使用料等として跳ね返ってくるため、整備費に見合う利便性を得られる施設整備を追求してもらいたい。
- ・ 行政は外観を優先する傾向があるが、実務に沿った整備を検

株式会社小田原魚市場（米山）

漁港の駅
TOTOCO 小田原
(高橋)

討してもらえれば、意見もまとまってくると思う。

- ・ 市役所には色々な部署があり、様々な視点を踏まえた検討も必要だと思うが、最低限、まずは水産海浜課が中心となってまとめつつ、そのうえで、ほかの要素を取り入れる方が、もう少しスムーズに検討が進むのではないかな。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着き、当施設への来訪者数が増加している中、交通渋滞については、改善が必要な課題である。
- ・ 早川エリアには自動車やバイク、電車などで来訪する人が一般的であるが、その中で新しく始めた電動キックボードや港内クルーズ、電動レンタルサイクル、その他観光回遊バスもあるが、そういった情報を利用者がどのように収集するかが非常に見えにくい状況であると感じている。
- ・ しかしながら、駐車場の確保や道路幅の拡張は、近々で解決できる課題ではないため、二次交通の利用を促すために情報を一元管理し、発信する仕組みづくりも大事だと考える。
- ・ 群馬県前橋市の交通の取組には以前から注目しており、元々、市内の主要駅から市役所や病院に行く道路が、非常に慢性的に渋滞していることや、バスがたくさん乗り入れて混雑している状況を解決していくために取り組んでいるとのことだが、そういった事例を参考にしながら交通情報を集約し、集約した情報をもとに分散化を図るなど、交通情報を市民の方にも伝えていくことで、少しは渋滞対策、駐車場対策にもつながっていくのではと思うので、ぜひ検討していただければと思う。

小田原市観光協会
(高村)

- ・ 10月14日(祝・月)に小田原ちょうちんまつりを開催し、入込観光客数は6万人と、前年よりもかなり増えている。
- ・ 現在、観光イベントだけではなく、常時誘客事業にも力を入れており、まち歩きツアーのような平日でも開催できる取組を実施していきたいと考えている。
- ・ 今回、あじ・地魚まつりにおいてクルージングが企画されているが、小田原の魅力を見てもらい、小田原に来た人をリピーターに繋げるため、まち歩きコースを2コース検討しており、1コースは小田原城までの往復、もう1コースは早川エリアを散策する内容で、小田原ガイド協会と協働し取り組んでいる。

NPO 法人小田原
ガイド協会 (水口)

- ・ みなとまつり、あじ・地魚まつりについては、協力をしており、10月27日(日)のあじ・地魚まつりに向けてはガイドを

早川商工振興会
(小松)

小田原市観光協
会 (高村)

木地挽自治会
(脇)

小田原地魚大作
戦協議会 (田
川)

3名手配して、ガイドコースを選定している最中である。

- ・ その他の取組としては、本年度は早川に対してかなり力を入れており、9月17日(火)には、真福寺の開創千年記念を絡ませた街かど博物館めぐりも実施しているなど、早川エリアにおける取組については全面的に協力している。
- ・ 早川エリアにおける取組として、あじ・地魚まつりと同日に一夜城まつりも開催される。
- ・ 地域の人たちとは、なぜ一夜城まつりとあじ・地魚まつりを同日開催するのか、それにより、お客さんが分散してしまうのではないかという話も出ている。
- ・ 色々取り組んでいくのは構わないが、出店する立場としては、出店調整が必要となるため、その点をもう少し考慮していただきたいと思うのでお願いしたい。
- ・ 先ほど一夜城まつりについては言及しなかったが、一夜城まつりもしっかりとした体制を構築し取り組んでいる。
- ・ 同日開催のねらいとしては、一夜城まつりから、あじ・地魚まつりに人が流れる、あるいはあじ・地魚まつりから一夜城まつりに行くという、そういった相乗効果を期待している。
- ・ 交通渋滞について、確かに休日は交通渋滞が激しいので、駐車場の整備は水産市場の再整備の中で検討していくとのことであるが、早く話を進めていただくことを切に願う。
- ・ その他、早川駅周辺は地域のコミュニティの場としては非常に大切、かつ重要であり、現在、かながわ西湘農業協同組合が所有している施設についても、JA かながわ西湘早川支店も移転するような話がある中、ぜひ早川駅周辺をコミュニティの場として、地域及び観光客を安全に受け入れられる場として利活用を考えていただけたらと思う。
- ・ 私は早川みなと商店会の副会長でもあるので、商店街の立場からの意見を言わせていただく。
- ・ 早川みなと商店会は、渋滞緩和のために何かできないかという思いで発足し、商店会費で警備員を雇いながら、漁具干場を開放してもらい臨時駐車場とするなど、少しでも渋滞緩和を図ることを一番の目的として取り組んできた。
- ・ 渋滞緩和に向けては、今できることは何なのかを考えていただきたい。
- ・ 先ほど、水産市場の再整備の中で駐車場設備も整備していくことで渋滞解消を図っていきたいという説明があったが、建物を建てるには時間かかるということは当然理解しており、

東組自治会（加藤）

水産市場の再整備を検討して 10 年以上、駐車場の問題はの間もずっと続いているので、今すぐにできることは何かを考えていただきたい。

- ・ 渋滞緩和に関しては、箱根町などの他地域で取り組んでいると思うが、地域にある駐車場情報を一元管理し、インターネットなどで混雑状況をリアルタイムで確認できるシステムも導入されているので、そうしたシステムを導入することで、電車で早川に行き早川駅前から電動キックボードやレンタルサイクルで移動するという発想を利用者が持つきっかけに繋がるのではないかと思うので、そういったことも考えてもらえればと思う。
- ・ 説明いただいた内容に対してではないが、昨年度、令和 5 年 7 月末頃にエリアブランディング構想（早川エリア）の策定に向け取り組んでいくという説明があつて、令和 6 年 3 月にはもうイメージパースもできあがっていた。
- ・ 構想の策定に向けては、自治会の会合に何度も市の職員が出席して話し合い、すごく慌ただしい中であつたという間に策定されたと感じていたが、本日の説明を聞いていると、4 月に入ってからは何も進んでおらず、昨年度のスピード感はどこにいったのかと思う。
- ・ 国道 135 号の渋滞はすごく、漁港の駅 T0T0C0 小田原に入らず待機している自動車も多く、その結果、住宅前の道路を抜け道として通行する自動車が出てくる。
- ・ 山側の道路も迂回路として通行する車があり、その結果、最近、正面衝突事故があつた。
- ・ こうした事故についても、駐車場不足、渋滞発生が関係していると考える。
- ・ 水産市場の再整備についても、10 年以上検討していることは存じていなかったが、喫緊の課題として優先順位を高くして、できることから着手していかないといつまで経っても何も進まず、話し合いだけで終わる研究会になってしまう。
- ・ 単なる報告の場ではなく、ここまで実施できたという報告・共有をする場がこの研究会ではないかと思い、参加させていただいている。
- ・ 早川駅のバリアフリー化について、前回の研究会では JR の方に対して早川駅のバリアフリー化をなんとかしてほしいと直接要望させていただいたが、改めて考えてみると、エリアブランディング構想という事業は、小田原市全域で行うまちづ

都市部（地域交通課）副部長
（金子）

東組自治会（加藤）

企画部政策調整課（府川）

くりと同様の視点を持ちながら、そのまちづくりの視点を早川エリアに当てはめながら進めていくような取組で、木を見て森を見ずのように、1つのことだけに囚われてしまうと、全体が見えなくなってしまうと考え、早川駅から水産市場までのバリアフリー化であるとか、それに伴う交通機関のあり方とか、そういうものをちゃんと整理しながら実現してほしいと考えている。

- ・ 構想の実現について、2040年の将来都市像となると今から15年後であり、65歳の方は80歳になっている。このことを考えると、今できることから着実にやっていくべきだと考える。
- ・ 行政は横断的に連携しながら進めていくと言うが、連携・調整というような抽象的なことではなく、何から着手していくのか具体的に取り組んでいただきたい。
- ・ これ以上、進め方について住民と話し合いをしても、何も出てこないと思うので、実施したことに対する評価をしながら、次のステップに進んでいければと思う。
- ・ 早川駅をどのようにバリアフリー化していくのかについては、早川駅周辺のまちづくりの一環として、早川駅のバリアフリー化を考えていくものと捉えている。
- ・ こうしたことからも、JRとも打ち合わせをしながら、まちづくりの方向性を整理し、取り組んでまいりたい。
- ・ 我々住民は変化を求めている。話し合いをすることは構わないが、市が窓口となって、どのように進めていくのか具体案を提示してもらいたい。
- ・ 研究会のあり方についても、今回は市長選の兼ね合いで、実施時期がこの時期になったことは仕方がないことだと思うが、やはり、4月に開催し3月までにどのような取組を予定しているのか、3月には実際どうだったのか、中間報告も含めて進捗管理をした方がいいのではないか。
- ・ 御幸の浜エリアのエリアブランディング構想についても説明があったが、両天秤で実施していると、二兎を追う者は一兎をも得ずになってしまうのではないかと、非常に危機感を抱いている。
- ・ 早川駅におけるバリアフリー化や、JA かながわ西湘早川支店を地域の活動拠点として活用していくことについても、それぞれの施設のみではなく地域全体を捉えながら、どのようなまちづくりを進めていくのかを考えなければならないということで、取り組んでいく上では、都市部だけでなく建設部な

小田原地魚大作
戦協議会（田
川）

水産海浜課（内
田）

企画部政策調整
課（田邊）

どの関係部署も絡んでいくので、至急、関係課と調整してまいりたい。

- ・ 先ほどから、皆さんの発言のほとんどが駐車場不足とそれによる渋滞に関することであるが、今できることはないのかということについて、前向きにというか、今できることを進めていくことがまず可能なのかどうかという点について、意見を伺いたい。
- ・ 駐車場の問題について、一番実感しているのは水産海浜課だと認識しており、当然、早川みなと商店会の協力、また、神奈川県西部漁港事務所にも本港東漁具干場を土日開放してもらい臨時駐車場として利用させていただいている。
- ・ さらに他にも駐車場用地として利用できる場所がないか探してはいるものの、抜本的な改善は難しいのが現状である。
- ・ 水産海浜課としては、JR 早川駅は JR の駅では一番漁港に近い駅なので、イベント時には公共交通機関の利用を促す取組として、小田原ガイド協会の協力を得ながら、電車で来た方にガラポン抽選券を配布するなど、公共交通利用に係るインセンティブを与えつつ、JR 早川駅が漁港に一番近いということをしっかりアピールすることで、電車での来訪を促しており、その結果、早川駅の利用者が増えていくことで、バリアフリー化にも繋がるのではないかと考えているので、駐車場の整備はすぐにはできなくても、様々な方策と連携しながら取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 私の方からは早川駅周辺の今後の取り組みについて説明させていただく。
- ・ 先ほどから都市部と政策調整課長からご説明をさせていただいたように、喫緊の課題はやはり早川駅のバリアフリー化に向けて、市がどういう調整をしていくのかというところだと認識している。
- ・ そのためには、都市部だけではなく建設部も交えた中で、早川駅全体をどうしていきたいのかについて、JR とともに、調査・調整をしながら協議を行い、最終的にどうしていくのかを皆さんにもお示しできればと考えている。

■ 次第 4 その他（今後の進め方について）

エリアブランディング構想（早川エリア）に基づき、「今後の進め方について」を説明。

(質疑)

なし

※今後は、年度当初の４月～５月頃に当該年度における各団体の取組予定を報告しながら、事業展開をする上での課題などを含めて、本研究会を通じて、情報共有を図り、エリアブランディング構想の実現につなげていく。

以上